

第24回大学図書館と国立情報学研究所との連携・協力推進会議
議事要旨

1. 日時：2022年6月29日（水）14:00～15:45
2. 場所：オンライン
3. 出席者：

（委員館）

喜連川所長，漆谷副所長，合田学術基盤推進部長，竹谷学術基盤推進部次長（以上，国立情報学研究所），坂井館長，木下事務部長（以上，東京大学附属図書館），池田館長，熊淵学術情報部長（以上，筑波大学附属図書館），石川学術情報センター長，河西学術情報課長（以上，横浜市立大学学術情報センター），西田図書館機構長，富澤学術情報担当課長（以上，大阪公立大学図書館），須田所長，松本事務長（以上，慶應義塾大学メディアセンター本部），ローリー館長，本木事務部長（以上，早稲田大学図書館）

（陪席）

濱生大学図書館コンソーシアム連合運営委員会委員長（関西大学図書館事務長），飯野これからの学術情報システム構築検討委員会システムワークフロー検討作業部会主査（佛教大学図書館専門員），前田オープンアクセスリポジトリ推進協会運営委員会事務局（国立情報学研究所図書館連携・協力室係長），藤澤学術基盤整備室長，大鷲参事官補佐，本多学術基盤整備室大学図書館係長，小林学術基盤整備室大学図書館係研修生（以上，文部科学省研究振興局参事官（情報担当）付），久保田総務課長，金藤情報管理課長（以上，東京大学附属図書館），加藤情報企画課長（筑波大学附属図書館），石井学術情報担当係長，松尾学術情報担当職員，海浦学術情報担当職員（以上，横浜市立大学学術情報センター），伊賀図書館情報担当課長（大阪公立大学図書館），笹淵総務課長（早稲田大学図書館），大和田情報企画課係長，並木情報企画課係員（以上，筑波大学附属図書館・国公私立大学図書館協力委員会事務局），西島総務部長，吉田学術コンテンツ課長，山崎図書館連携・協力室長，上村学術コンテンツ課副課長，木村学術コンテンツ課特任専門員，古橋学術コンテンツ課支援チーム係長，阪口学術コンテンツ課学術コンテンツ整備チーム係長，浅野学術コンテンツ課学術コンテンツ整備チーム係長，村上学術コンテンツ課学術コンテンツ整備チーム係長，林学術コンテンツ課研究データ基盤整備チーム係長（以上，国立情報学研究所）

4. 委員長挨拶

開会にあたり，池田委員長（筑波大学附属図書館）から挨拶があった。

5. トピック・レクチャー

議事に先立ち、東北大学附属図書館の小陳左和子事務部長から、『電子ジャーナル問題の切り札の一つとしての「転換契約」』と題した講演があり、以下の意見交換があった。

- 転換契約により、Wiley の利益はどれだけ減っているのか。出版者に囲い込まれる面もあるのではないかと。
 - 東北大学で最大限 OA にすると、購読料と APC を個別に支払う場合に比べて数千万円のメリットがあると考えている。
 - OA 化は避けられない流れとして出版者も対応を考えている。出版者に囲い込まれる可能性も承知しているが、現在の段階で取りうるベターな手段と考えている。
- 転換契約により大学が支出する費用はどうか。
 - 契約額は毎年増える。東北大学では著者が APC の半額を大学に収める方式をとっているため、OA 論文が増えれば支出の補填に充てられる額も増える。
- 学内の研究者が Wiley の出版するジャーナルに投稿するよう、図書館で誘導するかどうか。
 - 図書館として誘導することはない。
 - 研究者にとっては Wiley のジャーナルへの投稿であれば APC が半額で済むメリットがあり、インセンティブになる。
- Wiley への支出は電子ジャーナル全体でどの程度の割合を占めているのか。Wiley のみではメリットが少ないのではないかと。
 - 東北大学ではエルゼビアに次ぐ規模である。Wiley だけでも購読料は 1 億円規模になり、ある程度のメリットはあると考えている。
- 転換契約についてインフルエンスを上げるのはどうか。JUSTICE で主導するのはどうか。また、エルゼビアなど他の出版社は転換契約をどう見ているのか。
 - エルゼビアからはすでに連絡が来ている。

6. 議事：

(報告事項)

(1) 前回議事要旨について

池田委員長（筑波大学附属図書館）から、前回議事要旨は既に確定済みである旨の報告があった。

(2) 大学図書館コンソーシアム連合 (JUSTICE) の活動について (報告)

JUSTICE・山崎事務局長（国立情報学研究所（以下 NII））および濱生委員長（関西大学図書館）から、資料 2-1, 2-2 に基づいて報告があった。なお、資料 2-1 について、2022 年度の出版者交渉の件数のうち、「提案合意、開示済」は 6 月 28 日現在で 3 社に増えて

いる旨の補足説明があった。また、資料 2-2 について、7 月開催の JUSTICE 臨時総会にて審議予定である旨、臨時総会開催の経緯も含めて補足説明があった。

委員から、複数の大学が合併した場合に電子ジャーナルの契約はどうなるのかとの質問があり、他の委員から、大学の規模に応じて契約金額が変わるため合併によって支出額が増加した事例や、合併の際に出版社と交渉し支出額の増加を抑えることができた事例が報告された。

(3) これからの学術情報システム構築検討委員会の活動について (報告)

これからの学術情報システム構築検討委員会システムワークフロー検討作業部会・飯野主査 (佛教大学図書館) から、資料 3 に基づいて報告があった。

(4) オープンアクセスリポジトリ推進協会 (JPCOAR) の活動について (報告)

JPCOAR・木下委員長 (東京大学附属図書館) から、資料 4 に基づいて報告があった。

(5) 国立情報学研究所の学術コンテンツ事業について (報告)

吉田課長 (NII) から、資料 5 に基づいて報告があった。

- 2022 年 4 月 1 日から SINET6 の運用を開始した。
- 次期 JAIRO Cloud の本番移行については 2021 年 6 月から 10 月を予定していたが、ソフトウェア品質向上のためにさらに対策が必要と判断し、本番移行時期を 2022 年度に延期した。今後の予定は確定次第通知する。
- NACSIS-CAT/ILL については国際標準 (MARC21 フォーマット) に対応するための整備を予定している。現行の図書館システムとの接続方法は継続されるほか、現行のデータや機能はそのまま利用可能である。2022 年夏に参加館向け説明会、2022 年秋に技術資料・マニュアル案公開、2023 年冬にサービス開始を予定している。
- 2022 年 4 月 18 日に CiNii Articles を CiNii Research に統合した。

(6) 国公立大学図書館協力委員会の最近の動向について (報告)

国公立大学図書館協力委員会事務局・熊淵学術情報部長 (筑波大学附属図書館) から、資料 6 に基づいて報告があった。

7. 次期委員長挨拶

次回の開催予告に併せ、喜連川所長 (国立情報学研究所) から挨拶があった。

以 上